

金山町小中学校 1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1. 1 人 1 台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

1 人 1 台端末の利活用をととして、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、学習指導要領で求める「主体的・対話的で深い学び」を実現し、Society5.0 を生き抜く資質や能力を育んでいきます。

新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現と児童生徒の情報活用能力の育成のため、授業において効果的に活用できるデジタル教材等の充実を図ります。

また、児童生徒が新たな技術やサービスを安全に活用していくためには、様々なリスクに適切に対処できる能力を身につけることも必要です。児童生徒の情報モラル・セキュリティ意識の向上を図ります。

2. GIGA 第 1 期の総括

令和 2 年度より、金山小中学校において、1 人 1 台端末の整備や校内 Wi-Fi などのネットワークの整備、ICT を活用した授業用の大型モニターの整備などを行い、学びの保障の実現に取り組んできました。

ただし、課題としては、ICT 機器の使用が当たり前になることで、機器への依存度が高まり、長時間の娯楽のコンテンツの視聴やインターネット上での不正な情報や悪意のあるサイトへのアクセス、SNS を通じたいじめ問題など、現代社会が直面している問題に早いうちに入り込んでしまう恐れもあります。

このため、情報モラル教育やメディアコントロールをしっかりと行えることが必要となるため、町としては学校運営協議会の中でもメディアコントロールについて取り上げ、協議していくとともに、読書週間を身につけさせ、自らがメディアとの一線を引けるよう、子どもたちの読解力、知識と教養の向上と共に、メディアコントロールできる力を養うことにも取り組んでいます。

3. 1 人 1 台端末の利活用方策

3-1 1 人 1 台端末の積極的活用

金山町では、ICT 支援員を各校へ毎週 1 日ずつ派遣し、ICT 活用の校務支援を行っています。その他、ヘルプデスクとして緊急対応等も実施するとともに、1 人 1 台端末の積極的活用に向け、ICT 勉強会を開催するなどで、教職員の ICT

能力の向上に努めています。授業においても ICT を活用し、引き続きその幅を広げていきます。

3－2 個別最適・協働的な学びの充実

町では令和4年度からドリル教材を導入しています。ドリル教材は、児童生徒一人一人に合わせた学習を進めることができ、学力と自ら主体的に学ぶ力の向上が期待されます。今後もドリル教材の拡充・導入を継続します。

授業において、学習支援ツールを用いて児童生徒の課題の進捗状況を把握できることや、ICTを活用した他校とのオンライン交流授業を行うなど幅広く活用していきます。

引き続き、児童生徒が興味を持ち、授業での活用頻度を高められるよう、ICT支援業務による校務支援と勉強会の開催により、ICT能力の向上も図っていきます。

3－3 学びの保障

今後、何らかの理由で学校に登校できない児童生徒に対して、授業のオンライン配信や、教師とのやり取りに ICT を活用するなど、学校と児童生徒をつなぎながら学びの保障をしていきます。

これらの方策を実施していくために、これまでと同様に端末の整備・更新を行い、児童生徒1人1台端末の環境を引き続き維持していきます。